

# 安心づくり安全探しアプローチ (AAA:スリーエー) の 10 年



## 1. 安心づくり安全探しアプローチ (AAA) 開発 (2009～2011 年度)

---

安心づくり安全探しアプローチ研究会では、2009 年度から、家庭内高齢者虐待事例に対する家族支援を通じた予防的アプローチを開発すべく、文部科学省の科学研究費助成を受けて、解決志向アプローチに基づく AAA の開発を試みました。

各種のシートを開発するとともに、そのシートを使った対応法を学ぶ研修プログラムを作成し、2009 年度末から研修を重ねました。

研修参加者には研修前後アンケートを、また、了承を得られた参加者には研修 3 か月後アンケートを、さらに、協力を得られた方には AAA による実事例への支援経過に関するフォローアップ調査を実施させていただきました。これらの調査の結果、AAA が家庭内高齢者虐待事例への効果的な予防アプローチであることが示唆されるとともに、支援者の困難感が軽減されるアプローチであることが明らかになりました。

そこで、AAA を広く知っていただくために、副田あけみ・土屋典子・長沼葉月著『**高齢者虐待防止のための家族支援:安心づくり安全探しアプローチ (AAA) ガイドブック**』(誠信書房)を、また、この開発研究の方法と成果を明らかにした副田編著『**高齢者虐待にどう向き合うか:安心づくり安全探しアプローチ開発**』(瀬谷出版)を刊行しました。

## 2. 協働スキル・プログラムの開発 (2012～2014 年度)

---

高齢者虐待対応では、多機関のチームアプローチが必要となることがしばしばです。しかし、チームアプローチもまたさまざまな困難を伴いがちです。そこで、異なる機関の多職種がチームを組んで協働するために必要な協働スキルを明らかにし、そのスキルを身につける研修プログラムを開発することにしました。また、施設内高齢者虐待防止のために組織内チームの協働スキルについても合わせて検討することにしました。

2012 年度から科研費の助成を受け、関東にある 5 つの自治体の行政機関と委託型地域包括支援センターの職員さんに対するフォーカス・グループ・インタビューを行い、多機関協働のスキルを整理しました。そして、そのなかのコミュニケーション・スキルに焦点を当て、解決志向アプローチの哲学とスキルを活かした研修プログラムを作成しました。施設内高齢者虐待防止のための職場におけるコミュニケーション・スキルの研修プログラムも開発しました。

家庭内高齢者虐待に対する協働スキル研修と、施設内虐待防止のコミュニケーション・スキルを中心とした研修は、現在も継続して実施しています。

なお、協働スキルの調査結果をまとめたものは、副田著『**多機関協働の時代—高齢者の医療・介護ニーズ、分野横断的ニーズへの支援—**』(関東学院出版会)に収録しました。

### 3. AAA 多機関ケースカンファレンス・シートの開発 (2015～2019 年度)

---

協働スキルの調査研究を通して、ケースカンファレンスにおける「共同決定・役割分担スキル」がチームアプローチにとって重要であることが明らかになりました。しかし、強い不安や緊張を引き起こしやすい虐待事例等に関するケースカンファレンスは、参加者みなが納得する形での話し合いが進まないことも少なくありません。

そこで、カンファレンスを行うことでチームワークが醸成され、チームアプローチがうまくいくよう、解決志向アプローチや対話主義アプローチを基盤にしたカンファレンス・シートを作成し、その有用性を研修時のアンケート調査と、実際の事例にシートを活用した専門職のみなさんに対するインタビュー調査によって明らかにすることを試みました。

2015 年度から科研費の助成を受けて行ったこのケースカンファレンス・シートの開発研究の結果、その有用性を明らかにすることができましたので、本シートを活用した AAA 多機関ケースカンファレンスの実施方法や実施事例、その有用性について記述した本を、安心づくり安全探しアプローチ研究会編著『**チーム力を高める多機関協働ケースカンファレンス**』（瀬谷出版）を刊行しました。

### 4. 研修回数

---

安心づくり安全探しアプローチ研究会が毎年開催してきた 9 月研修は、今年度で 10 回を迎えました。これに、自治体等からの要請を受けて実施した AAA 家庭内高齢者虐待防止研修、協働スキル研修、ケースカンファレンス研修、施設虐待防止研修の回数を合わせると、2009 年度末から 2019 年 8 月末現在までで、研修回数は 296 回に達しました。ご参加いただいたみなさまは延べ約 14,000 人です。

ご参加いただいた多くの専門職・実務者のみなさまの貴重なご意見やご感想をもとに、私たちは開発研究を推進させてきました。

この場を借り、改めて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

また、下記の科研費助成が、これまでの開発研究を可能にしてくれました。ここに記して謝意を表します。

平成 21 年度～平成 23 年度科学研究費助成事業 基盤研究 (C) (一般)

『高齢者虐待に関する支援方法の研究』（研究代表 副田あけみ 課題番号 1530588）

平成 24 年度～平成 26 年度科学研究費助成事業 基盤研究 (C) (一般)

『高齢者虐待に対する協働技法の開発』（研究代表 副田あけみ 課題番号 24530744）

平成 27 年度～平成 31 年度科学研究費助成事業 基盤研究 (C) (一般)

『高齢者虐待の予防と対応におけるチームワーク』（研究代表 副田あけみ 課題番号 15K03972）

AAA の各種シート、AAA 多機関ケースカンファレンスに関する資料（「AAA 多機関ケースカンファレンスに関する Q&A」、「ファシリテーター文言カード」、「もう一つの物語:AAA 多機関ケースカンファレンス事例」「AAA 多機関ケースカンファレンスの有用性:研修時アンケート調査報告書」「チーム力を高める AAA 多機関ケースカンファレンス:インタビュー調査報告書」等）は、AAA の HP からダウンロードできます。<http://www.elderabuse-aaa.com/>

## 安心づくり安全探しアプローチ研究会 10年間の活動経過と今後

### 1. 安心づくり安全探しアプローチ研究会の立ち上げから AAA 開発まで

- 1994 年以降、家庭内高齢者虐待問題の調査研究および虐待防止に関する研修等に携わっていた副田あけみが、ある研修で、「介入拒否する事例は見守りだけでよいのか、緊急事態が起きてからの保護分離ではなく、そうした事態が起きないようにする支援方法はないのか」という質問を受けました。これに的確に答えられなかった体験が、早期介入による家族支援を通した虐待悪化予防アプローチの開発研究の契機となりました。
- また、家庭内高齢者虐待事例に対応する専門職のみなさんが、虐待事例への介入・支援にあたって強い不安や困難を感じ、疲弊しがちであることを見聞きしており、支援者が少しでも負担感を軽減できるようなアプローチが見出せたらよいと考えていました。
- そこで、予防的であり、支援者支援ともなるアプローチを開発していくため、解決志向アプローチの研究と実践に携わっていた長沼葉月と、ケアマネジャーとしての実践経験が豊かな土屋典子に副田が声をかけ、3人で研究チームを立ち上げました。
- 虐待対応に関する内外の文献を検討した結果、児童虐待事例に対するサインズ・オブ・セーフティ・アプローチを援用して、新しい予防的、かつ、支援者を支援できるアプローチを開発できるのではないかということになりました。
- そこで早速、サインズ・オブ・セーフティ・アプローチの開発者であるオーストラリアのアンドリュー・ターネルさんに、ターネルさんの本の訳者のひとりである井上直美さんを介して連絡を取り、高齢者虐待事例に対するアセスメント・シートに、サインズ・オブ・セーフティ・アプローチのシートを援用することの承諾を得ました。
- しかし、最初に作成したアセスメント・シートは書き込みの多いシートだったためか、研修参加者の戸惑いが目立ちました。また、サインズ・オブ・セーフティ・アプローチの理論的基盤である解決志向アプローチの哲学と方法を私たちがしっかり学んだほうがよいということで、土屋と副田が、長沼の師である黒沢幸子さんのワークショップに何度か参加しました。
- そして、長沼を中心にアイデアを出し合いながら、解決志向アプローチを基盤とした情報収集やアセスメントのためのシート、プランニングのためのシート、ケースカンファレンスのためのシート等を開発していきました。
- 虐待する家族と話しのできる関係をつくるための解決志向アプローチに基づく面接には、土屋の提案で、小林良二さん（東京都立大学名誉教授）たちが作成されたタイムシートを、小林さんご承諾の下、若干変更して活用させていただくことになりました。

- ・ シート活用の研修方法を検討するにあたっては、現在、AAA 研究会の会員となっていていただいている専門職のみなさんにご意見を聞き、それを反映させました。そして、これらのシートを用いた虐待事例対応を、安心づくり安全探しアプローチ（AAA：スリーエー）と呼ぶことにし、2009 年度末に神奈川県伊勢原市で AAA 第 1 回の研修を実施しました。ちなみに、AAA のモデル事例の名前が「伊勢さん」となっているのは、そのためです。
- ・ その後、AAA 研究会のコアメンバーに医療ソーシャルワーカーとしての経験が長い松本葉子が加わりました。コアメンバーが中心となって AAA による家庭内高齢者虐待防止研修を毎年、各地で行っています。
- ・ AAA が家庭内高齢者虐待事例対応に有用なアプローチであるかどうかを検証するため、研修前後アンケート調査、研修 3 ヶ月後アンケート調査、フォローアップ調査を実施した結果、AAA が支援者の困難感の軽減に役立つことが実証されるとともに、虐待する家族との関係づくりを通じた支援が虐待悪化を予防することが示唆されました。
- ・ そこで、AAA として開発してきたツールとその活用法を、『**高齢者虐待防止のための家族支援：安心づくり安全探しアプローチ(AAA)ガイドブック**』としてまとめました。また、AAA 開発の経緯と研究から明らかになった成果を、『**高齢者虐待にどう向き合うか：安心づくり安全探しアプローチ開発**』として刊行しました。

## 2. 協働スキル研修プログラムと施設虐待防止研修の開発

- ・ 安心づくり安全探しアプローチ研究会では、毎年 9 月に AAA 家庭内高齢者虐待防止研修会を開催していますが、その 2 回目の研修の際、参加者のおひとりから、「事例対応の際に、AAA を使いたいが、職場も他機関も問題志向が強くてなかなか使えない。どうしたらよいか。」という質問を副田が受けました。そのときは、「まず、職場や他機関で、AAA に関心をもってくれそうな人をひとり見つけ、AAA について知ってもらってください。仲間をつくってください。」といった具体性のないお返事をしたただけでした。
- ・ また、研修に行った先では、行政機関と地域包括支援センターとの、また、地域包括支援センターとケアマネジャーとの、あるいは、行政機関の高齢者支援課と生活保護担当課との間で、連携・協働がうまくいかない、という話をよく聞くようになりました。
- ・ こうした体験を踏まえ、職場内で、また、機関間で、連携・協働がうまくいく方法を、安心づくり安全探しアプローチ研究会で検討することにしました。
- ・ 家庭内虐待対応に関しては、地域包括支援センター、行政機関、ケアマネジャーのそれぞれの協働関係に焦点を当て、それらがうまくいっているかどうか、うまくいっているのなら、何が良かったから／何が行われているからうまくいっているのかを、地域包括支

援センターと行政機関の職員さんたちを対象にフォーカス・グループ・インタビューを実施しました。

- ・ 施設内虐待防止にも職場内の連携・協働が欠かせないことから、複数の施設長を対象に、虐待防止に寄与していると思われる職場内のシステムづくりやコミュニケーションのありようについてインタビュー調査を実施しました。
- ・ 調査結果を踏まえて協働スキル研修プログラムを、また、施設内虐待防止研修プログラムを作成し、現在も研修を継続しています。

### 3. ケースカンファレンス・シートの開発

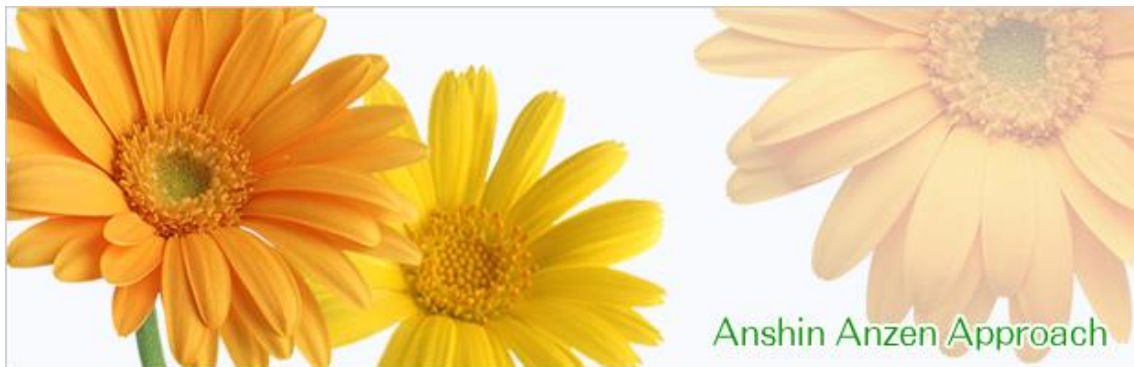
- ・ 協働スキルに関する調査結果からも、また、協働スキル研修でのグループワークを通して、多機関の協働を進めていく際の核となるのがケースカンファレンスであることが明らかになりました。しかし、異なる機関の多職種が集まるケースカンファレンスは、参加者のみなが納得のいく形で進み、すぐに実行できる結論を出せるわけではないこともわかりました。
- ・ そこで、多機関の関係者が集まるケースカンファレンスが、多機関から成るチームのチームワーク形成・発展に資する場となるよう、AAA の各種シートのひとつとして作成していたケースカンファレンスのシートを改善することにしました。
- ・ 改善したシートは、解決志向アプローチを基盤にしている点は以前と変わりありませんが、長沼のイニシアティブで、ヤーコ・セイックラらの「オープンダイアログ」や、トム・アーンキル「未来語りのダイアログ」等が提示している対話主義アプローチも基盤にしています。
- ・ セイックラさんとアーンキルさんが来日して行ったワークショップには、副田・土屋・松本も参加し、これらの新しいアプローチを学びました。
- ・ 改善したシートを「AAA 多機関ケースカンファレンス・シート（略称：多機関カンファレンスシート）」と名付け、その活用法をファシリテーション・ガイドとして作成。これらをもとに、ケースカンファレンス研修を開始しています。
- ・ 本シートの有用性を検証するため、2016～2018 年度、研修時アンケートと、実事例に関して本シート活用のカンファレンスを実施した専門職へのインタビュー調査を実施。調査の結果、その有用性が認められたことを踏まえ、AAA 多機関ケースカンファレンスを多くの専門職・実務者の方々に知って、使っていただきたく、安心づくり安全探しアプローチ研究会編著『**チーム力を高める多機関協働ケースカンファレンス**』を刊行しました。
- ・ 現在、ケースカンファレンス研修や施設虐待防止研修、AAA 研修については、AAA 研

研究会会員である松尾隆義（元区役所職員）や遠藤正芳（市役所職員）も研修講師として活動しています。

- ・ 安心づくり安全探しアプローチ研究会の 9 月研修にご参加いただいた方々を支援するため、参加者の方々のメーリングリストを作成するとともに、2013 年 3 月から、年に 3 回程度、不定期にフォローアップ研修を実施してきました。カンファレンスの実施やリフレクティング・プロセスを活用したピアスーパービジョンの実施など、ご参加いただいた方々のご協力で、多彩な活動を展開してきましたが、残念ながらフォローアップ研修は 2016 年度で中止としています。
- ・ その代わりというわけではありませんが、遠藤や松尾が地域の専門職を対象とした AAA 研修を不定期ですが開催しています。また、遠藤や AAA 会員である芦沢茂喜は、地域で行われる実事例のケースカンファレンスに、ファシリテーターあるいはコンサルタントとして参加する活動を行っています。安心づくり安全探しアプローチ研究会としても、こうした活動を今後積極的に行っていきたいと考えています。
- ・ AAA の各種面接ツールもそうですが、AAA 多機関ケースカンファレンス・シートは、虐待事例だけではなく、多様な複合問題事例（いわゆる「支援困難事例」）への対応にも活用できます。安心づくり安全探しアプローチ研究会では、今後、高齢者虐待事例に限らず、いろいろな複合問題事例に活用していただけるよう、周知方法を検討していきます。
- ・ また、本シートは、地域ケア会議等で地域の課題を検討し、次に実行できる方法を話し合っていくためにも活用できると考えられます。遠藤によると、本シートを使うと、今困っている地域の問題・課題だけでなく、地域の資源・強みを確認できるとともに、これまで地域で行ってきた課題解決活動についてもうまくいった例を出し合うことができ、民生委員さんたちが元気になる、そして、行政や地域包括支援センターの職員さんたちも地域でどのようなことが行われてきたのかよく理解できるようになるとのことです。
- ・ 相互の理解ができれば、地域のみなが何を願っているのか、何を当面の目標としてそれをどのようにしていけばよいのかについても、話し合いが活発になると考えられます。地域課題の改善・解決の話し合いに、本シートをどのように活用するのが有効か、今後、研究会でも検討していくつもりです。

専門職・実務者のみなさま、今後ともご支援のほど、よろしくごお願い申し上げます。

2019 年 9 月 21 日



## 安心づくり安全探しアプローチ(AAA)の研究会

代表：副田あけみ(関東学院大学)

長沼 葉月(首都大学東京)

土屋 典子(立正大学)

松本 葉子(田園調布学園大学)

色部 恭子(NPO 法人ホッとスペース中原)

芦田 正博(独立型社会福祉士)

大坂 慎介(逗子市)

玉井 理加(国分寺市役所)

千野 慎一郎(南アルプス市福祉総合相談課)

赤嶺 彩(国分寺市職員)

遠藤 正芳(加須市)

石坂 藍(国分寺地域包括支援センターなみき)

芦沢 茂喜(山梨県)

片山 薫(社会福祉法人フロンティア豊島区西部地域包括支援センター)

松尾 隆義(AAA 研究会)